

出資団体台帳

出資団体名	12.御母衣湖観光開発株式会社
-------	-----------------

所管課	観光課
担 当	

1. 出資団体概要

(令和6年4月1日現在)

①法人分類	株式会社 ()		
②業務分類	観光・レジャー ()		
③主な活動範囲			
④所在地	高山市荘川町中野262番地		
⑤設立年月日	昭和48年7月5日		
⑥従業員数	役員	(常勤)	(非常勤)
	正社員	(常勤)	(内出向)
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位
代表者 役員			
⑧資本金 80,000 千円			
	出資者	資産種別	出資額 出資割合
	高山市	有価証券	12,000千円 15.0%
	他自治体	有価証券	12,000千円 15.0%
	その他	有価証券	56,000千円 70.0%
	【備考】		

⑨設立目的			
定款に掲げる主な事業内容		現在の実施の有無	
御母衣湖並びに大白川湖の総合観光事業を企画、開発する		実施	理由 () 観光客
御母衣湖並びに大白川湖の観光施設の整備と湖面の利用を図る		実施	理由 () 観光客
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
⑩地域の関わり	荘川地域における地域振興や観光振興の観点で事業展開しており、地域住民からの出資や役員就任により運営されている。		
⑪市民の関わり	地域住民の就職先の一つである。		
⑫経緯			
出資時の状況			
その後の経緯			

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
ドライブイン事業	—	団体事業	ドライブインみぼろ湖の運営、維持管理 ・ レストラン (団体200人収容) ・ 民芸品、土産物販売 ・ 弁当販売	黒字	無	有	無
キャンプ事業	—	団体事業	令和6年4月からキャンプ事業開始	—	有	有	—

3. 財務状況

(1) 貸借対照表									
項目									
資産の部合計 A									
	流動資産 B								
	固定資産 C								
	繰延資産								
負債の部合計									
	流動負債 D								
	(うち借入金) E								
	固定負債								
	(うち借入金) F								
純資産の部 G									
	資本金								
	利益剰余金等								
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無							
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上							
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上							
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下							
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減							

(2) 損益計算書									
営業収益									
営業費用									
	(うち売上原価) (対営業収益比率)								
	(うち人件費) (対営業収益比率)								
〈営業損益〉									
営業外損益									
〈経常損益〉									
〈当期純損益〉									

〈評価分析〉	
--------	--

4. 市の財政的関与

区分				
出資金				
負担金、補助及び交付金				
指定管理料				
その他				
備考				

5. 課題等

項目			市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	・周辺には、岐阜県指定天然記念物に指定された荘川桜や、オートキャンプサイトがある。 ・インバウンド対応の知識が豊富で、温かいおもてなしができるスタッフが配置されている。	・湖畔に位置し、ロケーションが良い。 ・スタッフによる温かいおもてなしができる。 ・インバウンド対応の知識も豊富
		弱み	・高速道路の開通に伴い隣接国道を通行する車が減少し、立ち寄り客が減っている。 ・施設の老朽化により魅力が低下している。 ・団体客を対象としたレストランの構造であるため、個人客の取り込みが難しい。	・スタッフの若年齢化に伴う人材育成費用の増加。
	外部分析	機会	・近年のキャンプブームに伴い、隣接するキャンプ場と連携した集客を図ることができる。	・アフターコロナにおいて、インバウンドが主となっている。 ・円安の影響で食事単価が上がっている。
		脅威	・旅行形態（団体旅行から個人旅行へ）の変化	・航空会社の減便や目的地が日本以外になる事。
事業面 （必要性、公益性、採算性、収益性など）			・国内における団体観光需要の低迷等により、集客数の減少が大きな課題となっている。	・集客は出来ているが、シーズンによって大幅に減少するため、単価が下がっても日本国内の観光客を集める必要がある。
財政面 （財務状況の現状や将来の見通しなど）			・本来収益事業であるにも関わらず、利益余剰金がマイナスとなり、借入金が増加しているため、経営改善や根本的な見直しが必要である。	・人件費やその他経費の増加が著しいため、売上、利益ともに向上させる必要がある。
施設・設備 （所有する建物や設備等の状況など）			・ドライブインの建物や厨房設備、駐車場は、都度修繕を行っているものの、老朽化が進んでいる。	・ドライブインは建物の老朽化が深刻である。
組織・人員体制 （役員や従業員等の状況など）			・従業員の高齢化が進んでいる。	・スタッフの若年齢化に伴い、人材育成に時間と費用がかかる。
公共施設等総合管理計画 （方針と今後の考え方）			— ※隣接するみぼろ湖オートキャンプサイトは「譲渡」 民間主体による効果的な管理・運営に向け、民間への譲渡（譲渡先がない場合は廃止）を行う。	—
自由記載 （団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について）			・インバウンドによる利用者数の増加を見据えた戦略的な誘客活動が必要である。	・インバウンドに引き続き注力し、東アジア・東南アジアのみではなく欧州にも営業活動を行う必要がある。